



高校時代の懐かしい思い出、今年も皆で語らいましょう

東京鶴丸会会長 奥 努（29 回卒）

同窓生の皆さん、お元気でいらっしゃいますか。今年も総会の案内とともにこの「はろばろと」をお届けいたします。

今年1月にアルジェリアで起きた大惨事では、日揮様の多くの社員が被害に遭われました。私自身、報道を見ていて強い憤りを感じ、また非常に悔しい思いを致しました。日揮様には鶴丸卒業生が何人かいらっしゃり、GO鶴セミナーでは毎回後輩を快く受け入れて下さっています。被害に遭われた方々、ならびに日揮様には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて私たちは理事に就任して2年近くが経ち、残すはあと1年余りとなりました。当理事会が手がけましたのは、「新しいホームページ」の運営、活用です。一昨年11月にホームページを一新したのを受けて、東京鶴丸会の活動報告や情報を発信してきましたが、報告や情報の更新が遅いのは、との指摘も受けました。今後はよりタイムリーに情報を発信していきたいと思っております。皆さんもごまめにご覧いただき、ご意見や鶴丸

関連の情報をお寄せ頂ければと思います。

「はろばろと60周年記念事業」で取り組んだ「はろばろと」DVDは、予定通り昨年の6月に完成しました。すぐにホームページで告知するとともに東京鶴丸会総会や鹿児島同窓会会場等で宣伝して、多くの方に頒布する（購入して頂く）ことが出来ました。貴重な証言をして頂いた郡山先生、中馬先生をはじめ、ご協力いただいた皆様にはここで改めて御礼申し上げます。私自身、実行委員会のメンバーとして参加しましたが、非常に素晴らしい内容のものが出来たと自負しています。校歌「はろばろと」がどのようなように作られ、そこにどんなメッセージが込められているのか、お伝え出来たと思っています。まだの方は是非ご覧ください。

例年の活動としては、まず昨年5月20日の渋谷おはら祭り。1年ぶりの開催でしたが、鶴丸連は踊り手37人とボランティア7人の合わせて44人が参加、最後まで元気に踊ることが出来ました。6月30日には第4回ゴ

ルフ会を開催しました。参加者は34人。幅広い世代の交流が出来た楽しい一日となりました。今年もひとりでも多くの方に参加して頂きたいと思っています。

GO鶴セミナーは、7月12日に実施されました。これまで最多の56事業所を在校生300人余りが訪問しました。お忙しい中、受け入れて下さった皆様に感謝いたします。

就活生のためのセミナー「鶴ナビ」は10月6日に開催しました。5回目となった今回は学生の参加が40人と大きく増えました。昨今の厳しい就職事情を反映しているのかもしれない。休日にも拘わらず参加して下さいた社会人の皆様、ありがとうございました。

今年も会場は「目黒雅叙園」です。幹事の34回卒の皆さん方が一生懸命準備をしてくれています。昨年同様、大勢の参加者で会場は一杯になることでしょう。今年も同期生や先輩、後輩と、高校時代の思い出を今年も大いに語らいましょう。皆さんとお会い出来るのを楽しみにしています。では6月22日に。

東京鶴丸会 最近の主な活動

2011

11月
・公式ウェブサイト刷新

1月
・第1回世話人会
（幹事学年33回卒）

4月
・第2回世話人会
・新人歓迎会開催
・会報第15号発行

5月
・渋谷・鹿児島おはら祭り
東京鶴丸連が出演

2012

6月
・校歌制定60周年記念DVD
「はろばろと誕生物語」完成

・第46回総会・懇親会開催

・第4回ゴルフコンペ開催

7月
・GO鶴セミナー開催

10月
・鶴ナビ開催

1月
・第1回世話人会
（幹事学年34回卒）

4月
・第2回世話人会
・新人歓迎会開催
・会報第16号（本誌）発行

2013

校歌制定60周年記念DVD

「今こそ伝えたい！はろばろと誕生物語」完成

平成24年3月に60周年を迎えた我々が校歌「はろばろと」を記念し、その誕生の歴史をひもとくDVDが、昨年6月について完成。昨年の東京鶴丸会総会（鹿児島）の場でお披露目、頒布を開始いたしました。昨年末時点で、1400枚以上のDVDをお届けすることができました。ご覧いただいた皆様から多くの感想とメッセージが届いていますので、その一部をご紹介します。

（同窓生の皆様から）

「郡山・中馬両先生の一言一言の薩摩人らしい温かさ謙虚さに感銘を受けると同時に、鶴丸高への愛着の念と薩摩人と

しての誇りを確認できました。」

第10回卒・男性

「中馬先生や郡山先生の「はろばろと」に対する熱い思いを伺い、改めて鶴丸の校歌の素晴らしさを思い知らされました。まさに今こそ伝えなければならぬ、後世に残すべき貴重な財産だと思います。」

第17回卒・男性

「心待ちにしていたDVDを本日いただきました。主人がぜひとも子どもたちに贈りたいというので、先程3人の子ども宅に送ったところです。子どもたちは直接には鶴丸高校を知らないのですが、この機会に鹿児島島の心意気を伝えたいと思います。」

第5回卒・女性

「校歌に込められたものが、こんなに高い精神性のものであったということを知り改めて感動を覚えました。」

第16回卒・男性

（現役の鶴丸在校生から）
「（DVD最後の方の）合唱を聞いていると涙が出そうになる位、素晴らしいと感激しました。」
1年女子
「より高みを目指したその姿は、まさに鶴丸

にふさわしいと感じました。」

1年男子

「学校の歴史も感じることできました。戦時中から戦後の大変な時代から多くの人が鶴丸を支え、今の鶴丸があるのだなと感じました。」
2年女子

多くの皆様からの賛助に心から御礼申し上げます、ありがとうございます。

昨年7月には、郡山・中馬両先生へ、完成したDVDをお届けしました。両先生共、大変よろこんでいただき、DVDをじっくり鑑賞いただきました。その後、電話等を通じて両先生の交流が始まったと伺っております。

「はろばろと記念DVD」は、まだ在庫があります。もつと多くの同窓生の皆様に見ていただきたいと思えます。まだご存じない同級生や先輩後輩へ、ぜひお知らせいただければと思います。東京鶴丸会ホームページに申し込み方法の案内がございます。あるいは、事務局03-5298-1828（宗村森信（21回卒）まで、ご連絡ください。よろしくお願ひします。

「はろばろと」60周年
記念事業実行委員会

第46回東京鶴丸会会計報告 平成23年8月1日～平成24年7月31日

支出		収入	
摘要	金額(円)	摘要	金額(円)
		前年度繰越 ①	4,552,044
本部会計(会報・同窓会総会案内・本部活動に関するもの)			
第46回総会案内印刷費	525,546	年会費	1,483,000
〃 通信費	335,483	受取利息	533
〃 世話人会関連費	72,688	雑収入	250,420
〃 振替手数料他	111,810		
「はろばろと」印刷費	103,076		
ご祝儀(渋谷おはら祭)	70,000		
ホームページ作成、運営費	1,082,826		
広告費(平成24年度鹿児島総会)	30,000		
理事会運営費	56,146		
鶴ナビ運営費	58,315		
「はろばろと」60周年記念事業	1,626,228		
通信費・振込手数料他	7,875		
計	4,079,993	計	1,733,953
		本部会計収支差額 ②	△ 2,346,040
幹事学年会計(同窓会総会に関するもの)			
第46回総会会場費	4,274,450	第46回総会会費	4,331,000
〃 運営費	301,661	〃 祝金・寄付金	411,000
〃 プログラム・企画制作費	30,830	〃 広告収入	694,790
〃 幹事会等諸費	490,802	〃 受取利息	125
〃 新卒生親睦会費	63,000	〃 雑収入	100
計	5,160,743	計	5,437,015
		幹事会計収支差額 ③	276,272
		次年度繰越 (①+②+③)	2,482,276

第四十六回総会・懇親会のお礼とご報告

～久しかぶいっ！の、よか思いでした～

2012年6月23日は、「久しかぶいっ！」のテーマを掲げての第46回総会・懇親会でしたが、結果として700名を超える皆様にお集まりいただき、本当にありがとうございました。一つでも皆様それぞれの「久しかぶいっ」に出会って、お楽しみのだけでしたでしょうか？

卒業後30年という節目に幹事学年として、しかも故郷を離れた東京の地で同級生が再び集う機会に恵まれましたことは、これまで東京鶴丸会を脈々と支えて、盛り立ててくださった、諸先輩方並びに、昨今ではGO鶴セミナーや鶴ナビ等のイベントを通して触れ合った、東京鶴丸会に参加下さる新しい若い世代の方々のおかげと、心より感謝いたしております。

振り返りますと、2012年1月の第1回世話人会では、「久しかぶいっ！」というテーマを、「そん、言い方は違ごちよらせんけ？」という温かい先輩方からのチャレンジと議論が始まり、(結果的に、「さひかぶいっ」とルビを振ること)で収束を目指し(苦笑)、4月下旬の第2回

世話人会・新人歓迎会では50人を超える新人の皆様にお集まりいただき、予定していた会場を定員オーバーする事態になったり(こちらは33同期が外に出る形で乗り切りました)。東京鶴丸会のつながりや楽しさが経験できる出来事だったと、笑顔で思い出されてきます。

そして迎えた6月23日当日。まずは、鹿児島からも応援に駆け付けてくれた仲間を含め、多くの同期のみんなでの当日朝の打ち合わせ。やつとここまでたどり着いたという思いと、本番の数時間本当に乗り切れるだろうかという一抹の不安。それを同期の笑顔と、受験勉強でも見たことのなかった真剣な表情が吹き飛ばしてくれ、あつという間に最後のご挨拶。「よかったよ」「楽しかった」という皆様からの多くの暖かい言葉や感謝の言葉に包まれて、無事に終了することが出来ました。

最初の準備段階から、各班の活動は、優秀な仲間を支えられ、皆で絆を深めながら乗り切ることが出来ました。懇親会のイベントも初の試み？として、

準備委員長 松延 真一 (33回卒)

東京鶴丸会のWebサイトから、クイズの答えのネタとなるアンケート募集や、高校や世話人の方々の協力を仰ぎながらの卒業アルバムをすべて揃えて皆さんのテーブルで楽しんでいた、という鹿児島同期との共同企画へのチャレンジなど、試行錯誤、苦労しながらも皆で作りました。おかげさまでお楽しみのいただき、好評をいただくことが出来たと思っております。



校歌斉唱

また、有り難い巡り合せで昨年は、鶴丸高校校歌「はろぼろ」と誕生60周年という記念の年。ということ、本当に思い出に残る、記念のDVDに感動を頂く機会に恵まれ、最後に全員で歌った「はろぼろ」は、誰もが自然に肩を組み、本当に心が一つになったような一体感のある素敵な校歌斉唱ができました。その雰囲気の中にあることが出来たことは感動で、この年に幹事学年でよかったと、心から感謝しています。

一昨年に32回卒の先輩方から引き継ぎを受け、昨年に34回の後輩にバトンを渡すまでの約1年の経験は、「久しかぶいっ」というよりも、もしかしたら初めての、同級生の自由意思による For Othersの体現の貴重な機会だったのではと感じています。そして「久しかぶいっ」のよか思いを一番味わったのは我々33回の同期だったのではないでしょうか。今、同期の間では、「これが始まり」とますます盛んな同期会活動(飲ん方)へと繋がり、これも今回の貴重な経験のおかげです。

改めて、この場を借りまして、学校長、世話人、鹿児島鶴丸会、東京鶴丸会理事、その他多方面にご協力いただいた東京鶴丸会会員の皆様、特に32回卒の先輩の貴重なアドバイス・サポート等ご協力本当にありがとうございました。

現在、この素敵な経験のバトンは、34回卒が受け継いで、今年もまた同窓会がやつてまいります。まずは、34回の方々は自分たちが楽しんでください。そして、東京鶴丸会に縁あつてこの会報「はろぼろ」を受け取った皆様方とは今年の総会・懇親会でお目にかかれますように。ありがとうございました。



幹事学年 33 回卒

GO鶴セミナー 2012年も盛況に 今年は7月18日（木）開催

震災の影響で2年ぶりに再開された2012年GO鶴セミナーは7月12日、2年生300名余が、これまでで最多となる56事業所の卒業生の職場を訪問しました。

当日は早朝から都内のホテルを出発したそれぞれ4名から6名のグループが、慣れない満員電車や路線図などと格闘しながらOB・OGの事業所を訪ね、卒業生の仕事や事業所の説明、加えて高校時代の勉強やクラブ活動などの話に耳を傾け、質疑応答、昼食など貴重な修学旅行中の時間をともにしました。例年以上に、地理的には東のつくば市から西は横浜市までの広範囲、業種的にも、様々な民間企業から、病院、官公庁、議員、弁護士、会計士、税理士事務所、大学、研究所まで、極めて多岐に渡る卒業生に受け入れ頂き、より充実したセミナーとなりました。

生徒の皆さんからは以下のような感想が聞かれました
（一部掲載）。

- ・自分の高校の先輩に、こんなにすばらしい先輩がいっぱいあったんだということにひたすら感激

- ・鶴丸という環境に改めて誇りを持てました

- ・社会に出て働く先輩の仕事に対する真摯さは、私たちの日頃の生活の態度を見直すきっかけにもなりました

- ・努力する先輩方の姿が輝いて見えました

- ・僕らの後輩たちにもこのような素晴らしい機会をもちかけてあげられるよう、次は自分たちがこのGO鶴セミナーを担っていくようにならなければと思いました

- ・あの日学べたことや、五感で感じたことを忘れることは決してない

- ・自分もこのような職業に就いてみたいと強く思いました

- ・高校時代のお話もとてもおもしろく、わたしたちと変わらない点も多くあつて、素敵な交流ができた

- ・鶴丸でしか得られない貴重な体験で、少し私たちの夢が明確になった気がします

また受け入れた卒業生の反応も次のようなものでした
（一部掲載）。

- ・生徒さん達が好奇心をもつて、積極的に質問もし、一生懸命、新しいことを吸収しようという

姿勢だったのが好印象でした

- ・鶴丸生の真面目さと礼儀正しさ、素朴さが30年前とあまり変わっていない印象で嬉しかった

- ・自分の夢を見つけ、頑張っている姿に、私自身も刺激をうけました

- ・自身の人生を振り返っている生活を見直す、よい契機になりました

- ・初心に戻れるので、こちらも楽しみにしています

- ・素晴らしい生徒がやってきてくれることは先輩の立場としても誇らしい

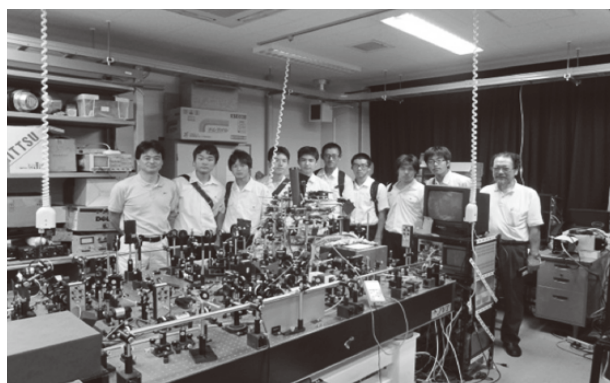
- ・母校に少しでも恩返しできる機会をいただけ、本当にうれしく思います

在校生と卒業生双方に実りある催しとして8回を重ね、鶴丸の名物行事になりつつあります。卒業生の事業所からも好意的にとらえて頂き、ほとんどの受け入れ卒業生が、可能であれば翌年も受け入れたいとの意向をお持ちになります。今後とも多数のご参加ご協力をお願いします。

今年のセミナーは7月18日（木）に開催予定です。

午前中で都合のよい2〜3時間で、4〜6名前後を1班として事前承諾を受けた1〜2班をお受け入れ頂ける事業所様は、5月9日（木）までに、東京鶴丸会ホームページ理事会コーナーの「事務局へのお問い合わせ」フォームから参加お申し込み下さい。

訪問終了後、京葉線舞浜駅（GO鶴セミナー後の集合場所）へ14時までに到達可能な場所を対象地域としますが、都心立地上、例年生徒割合に比較し理系生徒向きの職場が少ないようですので、理系卒業生の事業所（工場、研究所などの郊外立地の方）も奮ってご応募下さい。



就職活動を開始する大学生、大学院生のみなさんへ 就職活動支援セミナー『鶴ナビ2013』を今秋開催します！

『就職氷河期』と言われる環境下で、就職活動をする大学生、大学院生のみなさんは、大きな不安とともに活動をしていることと思います。

東京鶴丸会では、そんなみなさんを強力にサポートします。各界で活躍する鶴丸のOB、OGの方々の協力の下、就職活動中のみなさんに向けたセミナー『鶴ナビ』を2009年からスタート致しました。

鶴丸38回卒で、就職対策の専門学校で講師を務めている角倉さんの講演や、企業の最前線で活躍されている先輩諸氏が業界別にテーブルに分かれて学生と話をするプログラムなど、就職活動をする学生には非常に貴重な場になると思います。



過去の参加者からは、「セミナーは今まで受けてきた中で一番勉強になりました。こんなにたくさん先輩の話を聞く機会はなかなかなく、とても楽しかったです。」
「有意義な講義や社会人の方のお話を聞く事ができ、鶴丸生で良かったと改めて感じました。就職活動の良いスタートが切れました。」
「このような機会があること自体、幸せなことだと思いました。後輩にも教えてあげます。」
「仕事の話だけでなく、人生論も聞けて楽しかったし、今後の自分の人生への参考になりました。」
(参加者アンケートより抜粋)

と言った声をいただき、大変好評でした。

昨年は、10月6日に開催。40名の学生と、28名の社会人＋内定者名が参加し開催されました。大学1、2年生の参加も目立ちました。また、20歳前後の子供を持つOB、OGにとっても、最新の就職活動対策が盛り込まれた角倉さんの講義は、熱心に耳を傾ける内容となりました。

そして、鶴ナビは、過去5回の実施を経て、当時学生だった人が今度は社会人として協力、参加しています。都市銀行に就職した方からは、「自分の就活のスタートがこの鶴ナビで、その時に聞いた話、親切にしてくれた先輩に本当に感謝している。だから今度は自分が鶴丸の後輩に同じようにアドバイスしてあげたい」という言葉も貰いました。

今年も秋(10月頃)の開催を予定しています。詳細は東京鶴丸会のホームページで、8月上旬にはご案内致します。また、6月22日の東京鶴丸会総会の会場でも、案内チラシの配布や参加の申し込み受け付けも行います。

この「鶴丸愛」が溢れた会場で、今年もみなさんをお待ちしております！

東京鶴丸会ゴルフコンペのお知らせ

2012年の第4回ゴルフ大会は6月29日 千葉県真名カントリークラブ真名コースにて開催され、多くの皆様にご参加いただきました。優勝は25回卒宮園猛さん、準優勝は31回卒の千田朋介さん、第3位は23回卒の松原剛さんでした。26回卒 田中和義前会長は、通算3回目のベスト獲得でした。

今年2013年は、東京鶴丸会総会懇親会の一週間後、

6月29日土曜日に第5回コンペを 大熱海ゴルフクラブ大仁コースで

開催予定です。

10組40名までご参加いただけます。豪華賞品に加え、鹿児島焼酎飲み放題等で皆様にお楽しみ頂こうと考えています。また、伊東市内のホテルでの前泊プラン等もご用意いたしておりますので、多くの皆様のお問合せとご参加を心よりお待ちしております。

お問合せや参加お申し込みの方は、

te818526@gmail.com 担当 榎田卓央 (32回卒)

まで、お申込ください。また、WEBページにも開催情報を掲載していますのでご覧ください。皆様の多数のご参加お待ちしております。

申込締め切りは5月31日、先着順とさせていただきますので、何卒ご了承をお願いします。

渋谷・鹿児島おはら祭り



2012年5月20日、渋谷・鹿児島おはら祭りに、東京鶴丸連(東京鶴丸会の踊り連)が出場しました！踊り手37名、ボランティア6名が参加し、熱狂・感動のうちに終了しました。

今年(2013年)は、
5月19日(日) 12:50~15:50
道玄坂・文化村通りにて開催されます！

東京鶴丸連は
第1回から連続16回目の出場です！
ぜひ踊りパレードをご覧ください！

※ 踊り手、ボランティアとしての参加也大歓迎です



詳しくは・・・

東京鶴丸連

検索

希有の名校歌「第一走者」の誇り 生涯の最重要曲「はろばろと」

第6回卒業生 上原克彦 先輩に伺う

母校鶴丸に誇るべきもののひとつが校歌「はろばろと」である。その格調の高さは、あまたある他の校歌とは別次元の極みにある。「はろばろと」ができたのが1952（昭和27）年3月。その直後の4月に入学し1955（昭和30）年に卒業された第6回生の上原克彦さんは昨年、「はろばろと」制定の経緯をDVDにまとめる60周年記念行事プロジェクトの中心人物として奔走された。



戦後の新しい教育制度6・3・3制で、鶴丸に入学した6回生は、生徒数425名（男子246名、女子179名）。全9組のうち、7組が男女混合クラス、2組は女子クラスであった。当時はまだ女子生徒の進学率が今ほど高くない時代。女子のクラス分けは、進学を希望するか否かによって行われていたようである。

女性の先生の数も大変少なく、音楽、国語、家庭科ぐらいだった。「女性の先生に興味はあるのだが、接し方がわからず、逆に授業中に質問攻めにしたクラスもあった」という。

体育祭で、一般的な運動競技に加え、目玉プログラムのひとつだったのが「銀輪カーニバル」である。これは、女子生徒が2人ずつ自転車に乗って、団体で校庭をグルグル回ったり、8の字行進をするパレードで、注目の的であったようだ。

男子生徒もまだまだ強者（つわもの）揃いの時代で、プールを使用しない冬、真緑色に藻が生えたプールで泳いだら5円もらえるという、酔狂なゲームに挑んだ者もいた。

すでに、制服は、現在と同じ詰襟の学生服になっていたものの、頭はまだ全員坊主。主流だった下駄履きが学校で禁止され、靴（スック）を履くように決まったのだが、その後、生徒から学校に対し「下駄履きを認める」という運動が起こったりした。また、当時は、授業中以外は校内でも何故だか常に帽子をかぶっている学生が多かった。当時は私服という概念はなく、女子生徒はともかく男子生徒は年中、一日中、学生服で過ごしていた。

戦後10年を過ぎたとはいえ、まだまだ経済的に豊かとは到底言えない時代。しかしながら、逞しく育った当時の学生は、自立心が強かった。

昭和27年の公務員の大卒初任給は7800円弱で、一般的には皆、貧乏ではあったが貧しくはなかった時代であった。「戦争がないことがたまたまばらしいことなので、貧乏は気にならなかった」。やはり、東京に対するあこがれが強くと、東京に進学することにためらいはなかった。「でも、最初標準語を話すことができず、しばらく時間がかかりました」

進学に関して両親は子供にいちいち干渉しなかった。同時に過保護とは一切無縁。上京の手配などもすべて自分でやり、受験にも1人で行って帰ってきた。東京行きの汽車「霧島」（もちろん駆動は機関車）に乗るために、前の夜か

ら徹夜で駅に並んで座席を確保した。鹿児島から東京まで約28時間もかかっていた。

「鶴丸は学ぶところなり」という校風で育った鶴丸生であるからして、皆が勉強に励んでいたのは言うまでもない。当時の鶴丸生もまた、県立図書館に通っていたという。現在は鹿児島県立博物館となっているが、照国神社前交差点角地にあった当時の県立図書館は、1980年頃までの卒業生にとっては共通の思い出深い場所であり、「兄弟が多く、家では専用の部屋もないので、勉強に集中するためによく通っていました」

上原さんの実家は、今の鶴丸の近く（薬師町）にあり、同級生が10人くらい集まって、勉強していたという。加治屋町の校舎からは約2キロくらいの距離であるが、「当時は相対の距離でもほとんど歩いていました」。もちろん、思春期の若者であるから、「誰彼がきれいな女子生徒にモーションかけてるぞ」なんて会話もあったりして、和気藹々と楽しいひと時だった。「そのころの仲間たちとは今でも親密な関係が続けている」。

先述の通り校歌「はろばろと」が制定された直後の4月に、上原さんたちは、鶴丸高校に入学した。そのため、作詞した中馬幸子先生は第6回生を、「あなた方は校歌の第一走者」と称されたという。「入学時から卒業までの3年間、この素晴らしい校歌と共に

に過ごした最初の学年であるということは誇りに思いますが、『第一走者』の称号は永久のものであります。だから、この時機を逸すれば永遠に失われるであろう、校歌制定時の感動的なプロセスや資料、当時の先生方、生徒たちが抱いた思いなどを収集し、記録として残す責任を負うのは「第一走者の役割であり義務」と感じ、DVD完成まで奔走されたという。

上原さんは、自分にとって『はろばろと』とは「一生において最も重要な一曲」であると表現された。「喜寿という年齢を迎え、人生を振り返るとき、やはり人生の基礎を作ったのは、やはり最も意義深い時間と空間の中、3年を過ごした鶴丸高校であり、その象徴であったのが『はろばろと』という稀有の名曲だからです」。卒業式の際に校歌を合唱しながら「それまで経験したことないほどのものすごい感動に包まれた」と、式から帰宅していつもは歌曲について感想などおっしゃったことのない母上が「鶴丸の校歌は、すばらしい校歌なんだね」と話されたことも鮮明に記憶されているという。

最後に東京鶴丸会に向けて、「校歌『はろばろと』は、40年後には制定百周年を迎えます。そのときは是非とも鶴丸高校内のしかるべきところに両先生の胸像を立てていただきたい。このことを申し上げます」